

巻頭言

「バランスの良い技術力アップが必要」

常務取締役 土木本部 副本部長
田中 巳代

建設業を取り巻く経営環境は、依然として厳しく、2003年度の建設投資額は約54兆円の見通しで、最盛期1992年度の約84兆円に対して実に3分の2以下に縮小している。一方、我が社が主力とするPC建設業は特に公共投資に依存する比率が高く、2003年度の受注額は約4,000億円の見通しである。最盛期である1999年の約5,800億円と比べ約3分の2に縮小しており、今後もこの減少傾向は続くものと考えられる。さらに、PC建協加盟のゼネコンや会員外の地元建設業の受注比率が高まってきており、直接受注が減ることや安値受注の増加と採算面ではより厳しい状況である。

そんな中、建設業界各社は生き残りをかけ必死にリストラなどの対策を講じている。しかし、ここにきて超大手ゼネコンの総受注額は落ち込むどころか、上方修正している。その要因としては単なる“力ずくの営業”だけではなく、“総合的技術力”によるところが大きいものと思われる。例えば、最近の各種プロジェクトでは、その地域・場所の特性を生かし、環境問題などを解決するレベルの高い総合力が求められている。そのため、客先へのプレゼンテーションでは、幅広い分野で蓄積されてきた技術力およびノウハウの裏付けが重要である。そして、コストを含めた市場のニーズにタイムリーに対応できる組織、体制が大切であり、さらに各個人の設計・積算・施工の高い能力や総合的な考え方ができるバランスの良さが必要とされている。そのような超大手ゼネコンの組織・体制や個人の総合的技術力が受注増加要因であると考え、我が社も早急に“総合的技術力”の充実を図らなければならない。

我が社の方針は、技術立社として土木・建築ともプレストレストコンクリート(PC)技術を核とした、他社に負けない技術力を持つことである。我々に必要なのは自らの専門技術に関する知識や能力の向上に加え、組織やプロジェクト全般を見渡すことができるバランスの良い統括マネジメント技術である。今こそ、技術者ひとりひとりが幅広い見識を持ったバランスの良い技術力アップを図らなければならない。

最近、現場では安全を含め、初歩的なミスが目立っている。新技術を開発することも重要ではあるが、品質および安全確保の面からは基本的な施工技術の伝承による各個人ひとりひとりの技術力アップが非常に大切である。我が社の技術総合誌「技報」は技術の伝承を目的に作成されており、各個人の技術力アップのため大いに活用すべきである。そして、PC技術協会誌「プレストレストコンクリート」をはじめ、土木学会誌などの各学会誌や技術雑誌を通読し幅広い見識を持つことも忘れてはならない。